

# 2025年大阪・関西万博推進本部 「第5回 参加促進部会」資料

2024年3月21日  
参加促進部会

- 参加促進部会は、子どもから高齢者、障がい者、外国人、自治体、各種団体など、多様な方々が積極的に万博へ参加できる枠組みを整備し、参加を促すことを目的に、2022年8月に設置。以降、多様な方々の万博への参加促進のため、大阪府・市関係部局が主体的に取り組み、実現すべきものとして、以下の検討項目について、課題への対応や事業化に向けた協議等を行ってきた。

### 【参加促進部会での検討項目】

- (1) ボランティア活動を通じた万博への参加
- (2) 大阪の子どもたちの万博会場への招待
- (3) 大阪の魅力発信に向けたオール大阪による催事参加
- (4) 障がい者や高齢者などの催事参加
- (5) 万博を契機とした国際交流
- (6) 修学旅行など全国からの誘客促進

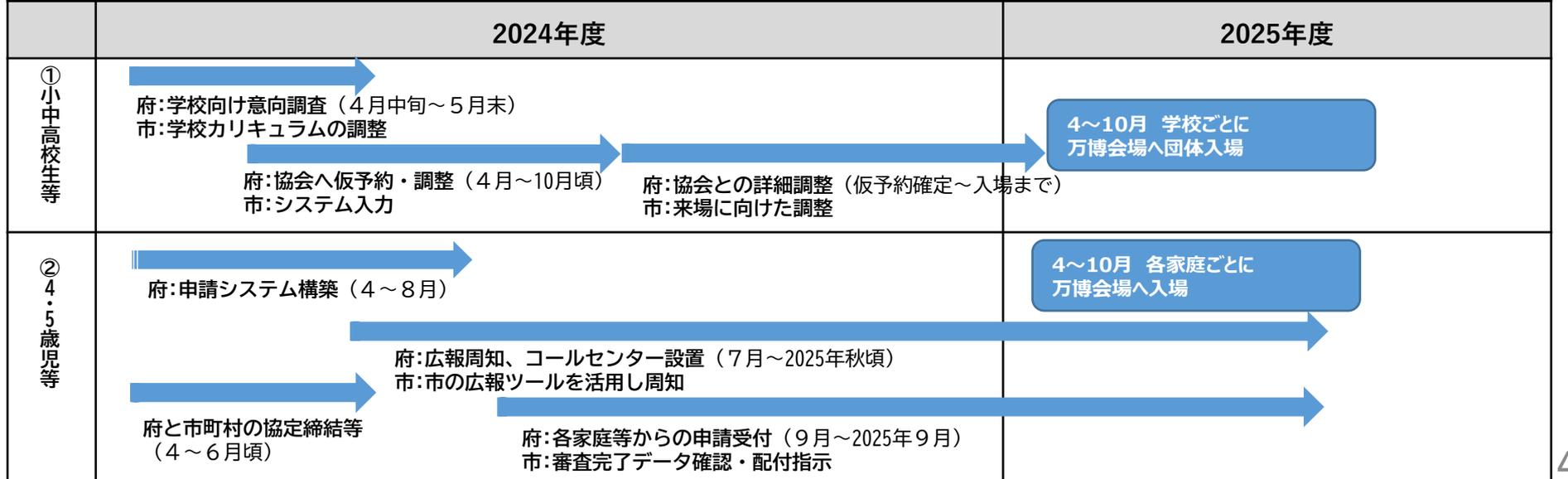
- 来月には、いよいよ開幕まで残り1年を迎える中、一人でも多くの方々が万博に参加できるよう、各検討項目ごとにこれまでの取組みを振り返るとともに、会期中まで見据えて今後の取組みを整理することで、開催に向けた準備をさらに加速させていく。

# (2) 大阪の子どもたちの万博会場への招待

次代を担う子どもたちに、世界各国の英知が結集された万博において、最新技術やサービス等に直接触れる体験を重ね、将来に向けて夢と希望をたくさん感じとってもらうため、万博会場への来場機会を提供。

## 2024年度の実施計画

	大阪府の実施計画	大阪市の実施計画
① 小中高生等	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～各学校ごとの来場人数・来場日・交通手段等の意向調査（府教育庁システムを活用）。各学校の意向を踏まえ、博覧会協会等と調整（交通手段や来場日時の課題等の解消に向け協議）</li> <li>仮予約確定次第順次、協会と見学ルート等の詳細調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～各学校が来場に向けて学校カリキュラム等の調整</li> <li>学校ごとに教育庁システムに来場日時を入力</li> <li>仮予約確定後、各学校が府教育庁システムで来場日時時の情報を確認。見学ルートや交通手段、下見などを適宜調整</li> </ul>
② 4・5歳児等	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～各家庭等からの申請受付システムの構築等（市町村の意向を踏まえつつ、協定書の締結など）</li> <li>7月頃～広報周知・コールセンター設置（府民からの問合せ対応）</li> <li>9月頃～申請受付開始（～2025年9月頃まで）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～府と協定締結後、府が作成するコールセンター想定QAや広報内容の調整</li> <li>7月頃～市の広報ツールを活用した周知、コールセンターで答えられなかった問合せへの事業者フォロー</li> <li>9月頃～大阪市分の審査完了データ確認・配付指示</li> </ul>



## 万博会期中の取組み

多くの子どもたちが万博会場に来場できるよう、以下の取組みを推進。

- ・ 府内の小・中・高校生等が、学校ごとに万博会場へ1回団体入場。  
(団体入場できなかった児童・生徒には、各学校を通じて入場チケットを配付)
- ・ 府内在住の4・5歳児や府外の学校への通学者等が、申請に基づき府から配付された入場チケットにより、万博会場へ1回入場。
- ・ 府と連携した取組を行う市町村においては、それぞれの施策を実施。  
大阪市については、市内在住の4～17歳の子どもたちへ夏パスを配付。

※入場チケット代金は、入場実績に応じて、協会に支出。

## これまでの取組み

- ・ 2023年6月、博覧会協会が入場券種や金額等を公表。同年8月、府が子ども招待事業の全体概要を発表。
- ・ 同年9月、市長会・町村長会にて、府から市町村と連携・協力した取組みについて説明。
- ・ 同年9月府議会において、府内の小中高中生等を学校単位で1回招待するための補正予算案を提出・議決。
- ・ 同年11月、府の取組みに加えて、大阪市が市内在住の子どもに夏パス配付に向けて取り組むことを発表。
- ・ 2024年2月府議会において、府内在住の4・5歳児等へ入場券を1枚配付するための予算案を提出。
- ・ 府内市町村と意見交換を重ねつつ、市町村の取組みにも活用できるよう、府の事業スキームを制度設計。

## 《事業スキーム》

### 《大阪府》 対象者:入場券が必要となる4歳以上の大阪の子ども

- ① 府内の小・中・高校生等(約88万人) → 学校教育活動の一環として、学校単位で1回団体入場
- ② 府内在住の4・5歳児、府外の学校への通学者等(約14万人) → 各家庭等からの申請に基づき入場券を1枚配付

### 《大阪市》

対象者:市内在住の4～17歳の子ども(約28万人)  
→各家庭等からの申請に基づき、夏パスを1枚配付

### 《その他府内市町村》

複数の市町村が府と連携した取組みを検討中  
(例:1日券や夏パスの追加配付、保護者割引実施など)

## ■ 基本的な考え方

- 開催地として、万博を一過性のイベントに終わらせることなく、万博のインパクトやレガシーを最大限活かし、**大阪の成長・発展につなげていくことが不可欠。**
- 万博開催までいよいよ1000日を切った中、課題は山積しているが、先延ばしすることなく、**府市の取組みを一気に加速させなければならない。各部局が有する機能をフル稼働させて、主体的に取り組んでいくことが必要。**



## ■ 参加促進部会の設置目的

- 万博の成功には、**世界中から一人でも多くの方々が万博に参加できるよう、国内外から人材や投資を呼び込む仕組み**を作っておくことが重要。
- 子どもから高齢者、障がい者、外国人、自治体、各種団体など、**多様な方々が積極的に万博へ参加できる枠組みを整備し、参加を促すことで、教育や福祉、府内各地域の都市魅力の向上・発信、国際交流など各部局の所管する施策を推進する絶好の機会**とし、**大阪の持続的な成長・発展につなげていく。**
- そこで、参加促進部会では、多様な方々の参加促進に向けて、**大阪府・市関係部局が主体的に取り組む、実現すべきもの**について、課題への対応や事業化に向け、協議等を行うものとする。

# (参考) 2025年度にむけた工程表 (2) 大阪の子どもたちの万博会場への無料招待

大阪の持続的な発展の担い手の育成のため、大阪の子どもたちに万博会場で革新的な技術やサービスを直に体験してもらい、将来に向けた夢と希望を感じてもらえるよう、万博会場への無料招待を実施。

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (万博開催)
<p>➤ <b>対象範囲及び実施手法案の検討</b></p> <p>◇子どもの無料招待の対象範囲及び学校行事も踏まえた、団体入場や入場券個別配付など、実施手法等を検討。</p> <p>※過去事例を調査</p> <p>◇府と府内市町村との役割分担について検討（市町村による上乗せ施策の有無など）</p> <p>➤ <b>博覧会協会との協議</b></p> <p>◇入場券制度</p> <p>◇予約、見学ルートなど</p>	<p>➤ <b>実施スキームの決定</b></p> <p>◇対象範囲及び実施手法案を参加促進部会で取りまとめ</p> <p>◇入場券制度の確定後、所要額を精査し、事業スキームを決定</p> <p>➤ <b>来場に向けた詳細な手法等について、協会、学校等との調整</b></p> <p>◇予約方法・交通手段（入場券販売開始後に校外学習等の仮受付スタート）</p> <p>◇昼食会場 など</p> <p>➤ <b>教育プログラム等を活用した事前学習</b></p> <p>➤ <b>予算要求</b></p> <p>◇入場料相当額や実施に伴う関連経費などの予算要求を実施（予算の計上時期や債務負担の有無については今後調整）</p>	<p>➤ <b>来場に向けた手続き等</b></p> <p>【校外学習の場合】</p> <p>◇協会WEBサイトを通じた入場及びパビリオン見学等の仮予約</p> <p>【個別配付の場合】</p> <p>◇無料入場券コードの配付</p>	<p>➤ <b>子どもたちを万博会場へ無料招待</b></p> <p>◇子どもたちが万博会場で未来社会を体験</p>